

アソカ講話004

テーマ「自らの指針とする言葉を持つ」

私は22年前、30歳の時に出会った言葉を人生の指針として生きてきました。その言葉は「与えられた環境でベストを尽くす」という言葉です。

人はともすれば、こんな環境は嫌だ、もっと違うことがしたいと思いがちであるが、今ある環境に感謝してベストを尽くせない者は、違う環境が与えられて喜んで、やがて時間がたてばやはり不平や不満を言うようになるだけであると教えられた。

与えられた環境には様々な意味がある。一つはあなたにとってその環境でしか学べないことがあること。それは冬の寒さがなければ桜が美しく開花しないように、厳しい環境がなければ人間性が深まらないことを教えている。「人は学びとしては常に最適の場所にいる」ある哲学者の言葉であるが、与えられた環境でベストを尽くす意味を端的に表した言葉だと思う。

そしてもう一つの意味は、与えられた環境でベストを尽くす中に、あなた自身の天命、使命、この世に生まれてきた目的、意味を知ることができるということである。指針とする言葉を持ち、天命を知り、あなた自身の花を見事に開花させることを願ってやまない。